

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	阪南大学		
② 大学等の設置者	学校法人阪南大学		
③ 設置形態	私立大学		
④ 所在地	大阪府松原市天美東5丁目4番33号		
⑤ 申請するプログラム又は授業科目名称	AIデータサイエンスリテラシーパッケージ		
⑥ プログラムの開設年度	令和2年度		
⑦ 教員数	(常勤) 112 人	(非常勤) 195 人	
⑧ プログラムの授業を教えている教員数	4 人		
⑨ 全学部・学科の入学定員	1,055 人		
⑩ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	4,909 人	
1年次	1,206 人	2年次	1,184 人
3年次	1,212 人	4年次	1,307 人
5年次	0 人	6年次	0 人
⑪ プログラムの運営責任者	(責任者名) 浅井 輝	(役職名)	教務課長
⑫ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	①教務委員会 ②阪南大学AI・データサイエンス教育研究所		
(責任者名)	①西 洋 ②前田 利之	(役職名)	①教務部長 ②所長
⑬ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	大学教育センター		
(責任者名)	加藤 清孝	(役職名)	大学教育センター長
⑭ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	阪南大学教務課	担当者名	中嶋 孝宏
E-mail	nakashima@hannan-u.ac.jp	電話番号	072-332-1224

学校名： 阪南大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 具体的な修了要件

プログラムを構成する下記対象科目(2科目4単位)を取得すること。

<対象科目>

- ・教養演習2a(AIデータサイエンス総論) 前期2単位
- ・教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門) 後期2単位

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称
1	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	26
2	教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門)	27
3		28
4		29
5		30
6		31
7		32
8		33
9		34
10		35
11		36
12		37
13		38
14		39
15		40
16		41
17		42
18		43
19		44
20		45
21		46
22		47
23		48
24		49
25		50

学校名：阪南大学

プログラムの履修者数等の実績について

学部・学科名称	収容定員	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		履修者数合計	履修率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
流通学部 流通学科(社会科学)	920	17	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	2%
経済学部 経済学科(社会科学)	1120	26	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	2%
経営情報学部 経営情報学科(社会科学)	880	52	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	6%
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科(人文科学)	684	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	3%
国際観光学部 国際観光学科(人文科学)	624	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
合計	4228	115	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	3%

学校名： 阪南大学

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>まずAI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。</p> <p>そのうち、本学での取組、AIの歴史に加えて、文系AI、「東ロボくん」を通じたAI論を通じて、現在進行中の社会変化へのAI・データサイエンスの寄与や、生活との結びつきについて学んでいる。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	1. 導入(1): 本学での取り組み、AIとデータサイエンス
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	3. AI入門: AIとはなにものか、AIの歴史、AIが出来ること
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	4. データサイエンス入門: データサイエンス≒データマイニング
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	5. AIと働くということ(文系AI)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	6. 「東ロボくん」を通じたAI論

<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	授業概要	
	<p>まずAI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。</p> <p>そのうち、「東ロボくん」を通じたAI論やAIと移動、AIと会話、感染爆発と戦うAIという広範囲なトピックを通じて、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るものであることについて学んでいる。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	6. 「東ロボくん」を通じたAI論
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	11. AI と移動(自動運転、VR・AR)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	12. AI と会話(共感)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	13. 感染爆発と戦うAI:AI・データサイエンスの総合的取り組み(1)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	14. 感染爆発と戦うAI:AI・データサイエンスの総合的取り組み(2)

<p>(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	授業概要	
	<p>まずAI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。</p> <p>そのうち、AIと創作やAIと学習データAIと移動、AIと会話などのトピックを通じて、様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例を示し、様々な適用領域の知見と組み合わせることで価値を創出することについて学んでいる。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	7. AIと創作(1...「ばいどん」)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	8. AIと創作(2...「AI美空ひばり」での創作への挑戦)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	10. AIと学習データ
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	11. AIと移動(自動運転、VR・AR)
	教養演習2a(AIデータサイエンス総論)	12. AIと会話(共感)

<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等) を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	授業概要	
	<p>まずAI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。</p> <p>そのうち、AIと創作での「AI美空ひばり」と倫理的議論、感染爆発と戦うAIというトピックを通じて、活用に当たっての様々な留意事項を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項について学んでいる。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	教養演習2a (AIデータサイエンス総論)	9. AIと創作(3...「AI美空ひばり」と倫理的議論)
	教養演習2a (AIデータサイエンス総論)	13. 感染爆発と戦うAI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(1)
	教養演習2a (AIデータサイエンス総論)	14. 感染爆発と戦うAI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(2)

<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	授業概要	
	<p>機械学習AIサービスを使用したアクティブラーニングでAIの概要を理解する。 ・各種AIサービスへ様々なタイプのデータを入力し、それに対する結果を分析する事で、その特性を把握する。 ・AIサービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AIサービスの活用手法を理解する。 これに必要なPython言語の基礎的なプログラミング手法を実習する。 自身の専門分野で役立つAIを活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	教養演習2b(AIデータサイエンス演習入門)	複数言語間の機械翻訳のシステムプログラミング体験
	教養演習2b(AIデータサイエンス演習入門)	非構造化テキスト分析のシステムプログラミング体験
	教養演習2b(AIデータサイエンス演習入門)	音声の文字起こしのシステムプログラミング体験
	教養演習2b(AIデータサイエンス演習入門)	画像の内容認識の体験

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	
アルゴリズム基礎	
データ構造とプログラミング基礎	
時系列データ解析	
テキスト解析	教養演習2b (AIデータサイエンス実習入門) 非構造化テキスト分析のシステムプログラミング体験、システムの企画立案(グループワーク)
画像解析	教養演習2b (AIデータサイエンス実習入門): 画像の内容認識のシステムプログラミング体験、システムの企画立案(グループワーク)
データハンドリング	
データ活用実践(教師あり学習)	教養演習2b (AIデータサイエンス実習入門): 画像の内容認識のシステムの企画立案(グループワーク)
その他	

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.hannan-u.ac.jp/special/AI2020/>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT 等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策を考える力を養い、さらにAIを用いたシステムの概要を理解し、自身の専門分野での問題を解決するAI活用システムを立案できるようになる。

学校名：阪南大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教務委員会規程、阪南大学AI・データサイエンス教育研究所規程

② 体制の目的

<教務委員会>

本学に、教務に関する重要事項を審議し、かつ教務部長の日常業務の執行を補佐するため、教務委員会を置く。

<阪南大学AI・データサイエンス教育研究所>

全学的AI・データサイエンス教育を議論するための組織として、授業の提案およびその改善、進化を進めることを目的とする。

③ 具体的な構成員

<教務委員会>

教務部長、各学部教授会選出の教務委員(5名)、教務部事務部長、教務課長、教育情報課長

<AI・データサイエンス教育研究所>

研究所長、研究員(9名)

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

各年度の履修者数の目標を以下のとおりとする。(()内は履修率。)

令和3年度 250名 (6%)
 令和4年度 450名 (11%)
 令和5年度 650名 (15%)
 令和6年度 950名 (23%)
 令和7年度 1200名 (28%)

2020年 kick-off した授業についてはコロナ禍もあり手探りの状態であった。

2021年度からは教養演習2a(AIデータサイエンス総論)については2クラス開講し、さらに2022年度からは教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門)について6クラスの開講とする予定である。

また、より多くの学生に本学におけるAIデータサイエンス教育を理解してもらい、受講者数を増加させるため、一般教育科目に以下の新規科目を開講し、2022年度よりAIデータサイエンスリテラシーパッケージ対象科目を移行する。

教養演習2a(AIデータサイエンス総論) → AIデータサイエンス総論
 教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門) → AIデータサイエンス入門1・2
 ※現状半期1科目を半期×2科目に拡大

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

教養演習2a(AIデータサイエンス総論)および教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門)いずれも全学対象の一般教育科目としての配置であり、学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような体制となっている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

授業についての資料(チラシ)を作成し、年度はじめのガイダンスにおいて配布し、周知を行っている。

1年次生後期の全員履修科目(情報機器の操作に関する科目)において、担当講師から科目の案内を行い、履修を推奨している。

保護者ポータルサイトにおいて、担当教員および受講者インタビュー記事を掲載し、科目の重要性とプログラムの受講推奨を呼び掛けている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

教務課においてAI・データサイエンス教育担当(兼任)を2名おき、上記ガイダンスを含め履修・習得のサポートできる体制をとっている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

2020年度前期についてはコロナ禍のため Microsoft Teams 等を活用した遠隔授業であったこともあり、チャット機能や、大学設置のメールシステムを用いて指導や質疑を取り扱える体制をとっていた。後期の授業については対面での授業であり、授業中での指導・質疑はもちろん時間外での講師への電子メールでのやりとりは可能となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教務部教務課において、教務システムに蓄積される履修・成績データをもとにプログラムの履修・修得状況の調査および分析を行う。また、LMSの活用により講義の進捗状況と課題の提出状況等を把握することができる。</p> <p>授業の実施状況については、主担当教員および担当職員が定期的に科目を聴講し、受講者の状況や講義の進捗状況を把握する。また、担当講師と定期的に科目担当者会議を開催し、進捗状況の情報共有と改善を図る。</p>
学修成果	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケートのうちその結果を阪南大学AI・データサイエンス教育研究所および教務委員会と共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケートを通じて学生の内容の理解度や満足度を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケート結果のリンクをシラバス上に設置することで、学生は前年度履修者の回答結果を自由に閲覧・参考に履修計画を立てることができる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラム対象科目の前段となる情報機器の操作を学ぶ科目「情報処理入門」・「情報処理応用」について、全学部全学科の全員履修科目に統一した。また、本教育プログラム対象科目の講師と前段科目の講師間での情報共有から科目の連動性を高め、本教育プログラム履修の推奨を行っている。</p>

<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>2020年度からの開講科目であるため、まだ卒業生はでておらず評価の対象となっていない。進路状況と活躍状況については、キャリア支援課との連携で情報の把握を行う。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>2020年9月に開催した阪南大学「AI・データサイエンス教育研究所 開設記念講演」において、コニカミノルタ(株)近藤様をまじえてパネルディスカッションをおこない、モチベーションをいかにあげるかが大切などの意見交換をおこなった。 参考URL: https://www.youtube.com/watch?v=-PIGo6MD7c8</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>教育・啓蒙を主な目的としていないテレビ番組のコンテンツなどを活用することで、楽しさを理解してもらうと同時に時事的な事柄もとりいれ、学ぶ意義の理解を試みている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>テレビで放送されたコンテンツなどを適宜活用し、AI・データサイエンスをとりまく種々のトピックについて出来るだけ分かりやすい入口を用意して、それと同時に適宜講義による解説を補って内容を維持、向上している。</p>

② 自己点検・評価体制における意見等の公表の有無 有

※公表している場合のアドレス

<https://www.hannan-u.ac.jp/special/AI2020/aidate>

授業コード	A7003XB		
科目名	教養演習 2 a (AIデータサイエンス総論)(B)		
⑥ 担当者	前田 利之		
⑤ 単位数	2	ナンバリング	
開講期間	2020年度 前期	開講曜日	火曜4限
開講キャンパス	本キャンパス		
① 授業の到達目標 およびテーマ	AI (Artificial Intelligence, 人工知能) やロボットの技術向上により、20年後には、日本では労働人口の約半数が、AIやロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に、どんな力を身につけ、キャリアを築いていけば良いであろうか？本講義では、今、着目されている、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策を考える力を養うことを目標とする。		
③ 授業の概要	まずAI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。		
④ 授業計画	01. 導入(1): 本学での取り組み、AIとデータサイエンス 02. 導入(2): AI・データサイエンス基盤としてのコンピュータ入門 03. AI入門: AIとはなにものか、AIの歴史、AIが出来ること 04. データサイエンス入門：データサイエンスとデータマイニング 05. AIと働くということ（文系AI） 06. 「東ロボくん」を通じたAI論 07. AIと創作(1...「ばいどん」) 08. AIと創作(2...「AI美空ひばり」での創作への挑戦) 09. AIと創作(3...「AI美空ひばり」と倫理的議論) 10. AIと学習データ 11. AI と移動（自動運転、VR・AR） 12. AI と会話（共感） 13. 感染爆発と戦うAI:AI・データサイエンスの総合的取り組み(1) 14. 感染爆発と戦うAI:AI・データサイエンスの総合的取り組み(2) 15. まとめ（実力テスト）		
授業外学習（予習・復習）	授業中に理解できなかった場合は必ず復習をおこなわないと、次のステップにすすめないので留意すべきである。		
② 授業の方法と学習上の留意点	この授業では、無線LANを利用した双方向教育システム「H I n T」で授業中に小テストを行う。		
⑦ 成績評価基準	毎週の小テストと期末テストによる総合評価とする。		
教科書	なし		
参考文献	追って指示する		
関連して受講することが望ましい科目	教養演習 2 b (B)		
シラバス分野	一般自由		

授業コード	A7004XB		
科目名	教養演習 2 b (AIデータサイエンス実習入門)(B)		
⑥ 担当者	甲斐 隆浩		
⑤ 単位数	2	ナンバリング	
開講期間	2020年度 後期	開講曜日	火曜4限
開講キャンパス	本キャンパス		
① 授業の到達目標およびテーマ	あらゆる分野での活動を支えているコンピュータシステムは、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）が中心技術として注目されるようになった。このAIについて理解し、AIを活用する事でそれぞれの専門分野のどのような問題が解決出来るのかを、検討・企画・立案できる人材が求められている。様々な機械学習AIサービスを多く使用し、システムへの組み込みを体験する。この過程で様々なタイプのデータをAIに与えて結果を検討し、AIサービスの特性を分析できるようになる。これによりAIを用いたシステムの概要を理解し、自身の専門分野での問題を解決するAI活用システムを立案できるようになる。		
③ 授業の概要	<p>機械学習AIサービスを使用したアクティブラーニングでAIの概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種AIサービスへ様々なタイプのデータを入力し、それに対する結果を分析する事で、その特性を把握する。 ・AIサービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AIサービスの活用手法を理解する。これに必要なPython言語の基礎的なプログラミング手法を実習する。 自身の専門分野で役立つAIを活用したシステムを、グループワークで立案する。 		
④ 授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、各種AIサービスの紹介、Pythonプログラミング環境の確認</p> <p>第2回 基礎プログラミング実習(1) 順次構造の基礎プログラム・関数の利用</p> <p>第3回 基礎プログラミング実習(2) 分岐構造の基礎プログラム</p> <p>第4回 基礎プログラミング実習(3) ループ構造の基礎プログラム 【小課題1】</p> <p>第5回 AIマルチ言語翻訳(1) 複数言語間の機械翻訳の体験</p> <p>第6回 AIマルチ言語翻訳(2) 複数言語間の機械翻訳のシステムプログラミング体験</p> <p>第7回 AI自然言語解析(1) 非構造化テキスト分析の体験</p> <p>第8回 AI自然言語解析(2) 非構造化テキスト分析のシステムプログラミング体験</p> <p>第9回 AI自然言語解析(3) 非構造化テキスト分析を活用するシステムの企画立案（グループワーク）【小課題2】</p> <p>第10回 AI音声認識(1) 音声の文字起こしの体験</p> <p>第11回 AI音声認識(2) 音声の文字起こしのシステムプログラミング体験</p> <p>第12回 AI画像認識(1) 画像の内容認識の体験</p> <p>第13回 AI画像認識(2) 画像の内容認識のシステムプログラミング体験</p> <p>第14回 AI画像認識(3) 画像の内容認識を活用するシステムの企画立案（グループワーク）【総合課題】</p> <p>第15回 ゲームでのAI活用例（Alpha碁）の紹介</p>		
授業外学習（予習・復習）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で実習したプログラムを完成させる。またそのプログラムの内容を再確認する。 ・実習時間外においても、提示したAIに対してタイプの異なる様々なデータを与える事で、AIによる解析の様子を見て理解を深める。 ・HInTシステムを用いて授業の発展学習資料を提示する。自身の学習レベルに応じた発展学習に取り組む。 ・企画立案授業の予習として、対象のAIがどのような用途に役立つか検討しておく。 ・グループワークで立案したAI活用システム案を、提出期日までにまとめる。 		
② 授業の方法と学習上の留意点	<p>授業はパソコン教室での実習形式で、AIの利用体験やプログラミング、グループワークなどのアクティブラーニングを中心に学習する。</p> <p>HInTシステムを用いて提示する授業資料を、授業中のみならず予習復習でも活用してAIに関する理解を深める。</p> <p><留意点></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、出欠をとる。パソコンの実習科目なので、毎回の出席がとても重要である。 2. 出席数は、授業回数の3分の2以上であることが単位取得のための必要条件である。 3. 講義に関係のない私語や途中退室、遅刻に対しては厳重に対処し、受講態度の悪い者には退室を命じる。 		
⑦ 成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の基準は平常点とする。平常点の内訳は総合課題の評価点（40%）、小課題の評価点（40%）、授業参加姿勢の評価点（20%）である。 ・成績を評価する際、授業態度を考慮することがある。特に授業の進行を妨げるような授業態度の者は、評価を落とす場合がある。 ・追・再試験は実施しないので注意すること。 		
教科書	無し（HInTシステムを用いて授業資料を提示する。）		
参考文献	必要に応じて授業中に提示する。		
関連して受講することが望ましい科目	教養演習 2 a (AI・データサイエンス総論)		
シラバス分野	一般自由		

D 一般教育科目

履修要領

CONTENTS

1. 一般教育科目とは	D-1
2. カリキュラムの特色	D-1
3. 群のテーマと科目構成	D-2
4. 卒業必要単位数	
(1) 「情報とメディア」群	D-3
(2) 「言語と文化」群(経済学部・流通学部・ 経営情報学部の学生)	D-4
(3) 「人間と文化」群	D-6
(4) 「歴史と社会」群	D-6
(5) 「自然と環境」群	D-6
(6) 「健康とスポーツ」群	D-6
(7) 基盤教育科目	D-6
(8) 自由選択科目	D-6
(9) 卒業必要単位数	D-6
(10) 科目配当表	D-7
(11) 科目担当者表	D-12
5. その他	
(1) 外国語科目の難易度について	D-19
(2) スポーツ技術／スポーツ・トレーニング の履修について	D-19
(3) 履修における制約条件の追加	D-21
(4) 科目履修の全体計画	D-21
6. カリキュラムマップ(履修系統図)	D-22

⑨基盤教育科目「スタディスキルズ1・2」担当者表

(般第7表-9)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当学年
スタディスキルズ1・2	2A	原 博子	E	1
	2B	佐々木 かな子		
	2C	柳 あず美		
	2D	酒井 美奈子		
	2E	種子 康子		
	2F	松本 麻友		
	2G	豊福 千穂		
	2H	岩村 洋子		
	4A	豊福 千穂	B	
	4B	谷岡 愛		
	4C	柳 あず美		
	4D	酒井 美奈子		
	4E	種子 康子		
	4F	松本 麻友		
	4G	岩村 洋子		
	5A	豊福 千穂	I	
	5B	佐々木 かな子		
	5C	柳 あず美		
	5D	原 博子		
	5E	松本 麻友		
	5F	岩村 洋子		
	6A	豊福 千穂	G	
	6B	伊賀 吉郎		
	6C	原 博子		
6D	種子 康子			
7A	豊福 千穂	T		
7B	伊賀 吉郎			
7C	原 博子			
7D	種子 康子			

⑩自由選択科目「教養演習1a・1b・2a・2b」担当者表

(般第7表-10)

科目名	クラス	担当者	備考
教養演習1a	A	真田 (桂)	フランス語圏の文化と芸術1
	B	松村 (幸)	法律学への誘い1
	C	田上 (博)	学長塾～ 社会人としての教養実践
教養演習1b	A	真田 (桂)	社会人としての教養実践2
	B	松村 (幸)	法律学への誘い2
教養演習2a	A	松村 (幸)	社会の変化と法1
	B	前田 (利)	AIデータサイエンス総論
教養演習2b	A	松村 (幸)	社会の変化と法2
	B	甲斐 (隆)	AIデータサイエンス実習入門
	C	中尾 (文)	
	D	酒井 (麻)	

6. カリキュラムマップ（履修系統図）

一般教育科目では学生の自主的な学習と各自の興味や関心に沿った履修を可能とするために、数多くのメニュー（科目）を用意しています。したがって、学生諸君は自己の興味や意欲に基づいて科目選択が可能ですが、入学直後にそれを判断することの困難さを勘案し、カリキュラムマップを示しています。これらを参考にしながら、ガイダンスでの指導も併せて自主的、主体的に科目選択を行ってください。

<ナンバリング付与ルール>

開講される授業科目に、授業内容・レベル等に応じて特定のナンバーを付与し、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。学生諸君においてもナンバリングを含むカリキュラムマップを用い、体系的な学修計画を立ててください。学部コード、科目区分コード、レベルコード、管理コードから形成されています。それぞれのコードの意味は次のとおりです。

1ケタ目：一般教育科目コード（一般教育科目はLで統一）

2ケタ目：履修要綱の一般教育科目科目配当表（般第6表－1～8）の科目区分の上からの並びに準じて科目区分を表すアルファベットを順番に割り当てる。（例）「情報とメディア」群、「言語と文化」群・・・。

3ケタ目：レベルコード1。最初に受講できる配当年次を表します。

（例）配当年次1ならば1,配当年次234ならば,2となります。

下2ケタ：管理番号。学科科目一覧表に記された科目区分の、区分ごとに番号を割り当てている。

ナンバリング例：

情報処理入門・・・LA101

英語3・・・LB201

<ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）>

建学の精神である「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」に基づき、国際的なビジネスパーソンにふさわしい幅広い教養と専門知識を身につけ、高度の問題解決能力と社会的適応の力を備えた人物として成長を遂げた学生に学位を授与します。具体的には以下に示した能力を養成します。

【知識・理解】

- ①多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解している。
- ②それぞれの専門的学問分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- ③それぞれの専門的学問分野における基本的な知識を体系的に理解している。

【汎用的技能】

④情報リテラシー

コンピュータの基本的な使い方や情報処理を行うことができる。またコンピュータを利用したプレゼンテーションを行うことができる。さらに情報コミュニケーション技術を用いて多様な情報を収集・分析・整理し、モラルに則って効果的に活用することができる。

⑤コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

⑥論理的思考力

情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

⑦問題解決力

グローバルかつローカルな視点から地域社会と協力して問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題の解決策を見いだすことができる。

【態度・志向性】

⑧多様性の理解と協調性

自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。また、旺盛なチャレンジ精神を持って、他者に方向性を示し、目標実現のために動員するとともに、状況に応じて主導者への自律的支援と組織への主体的貢献により、必要な役割を能動的に果たすことができる。

⑨倫理観と社会的責任

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

⑩自己管理能力

自らを律して行動できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

⑪これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、幅広い視野から物事を総合的に判断することができ、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

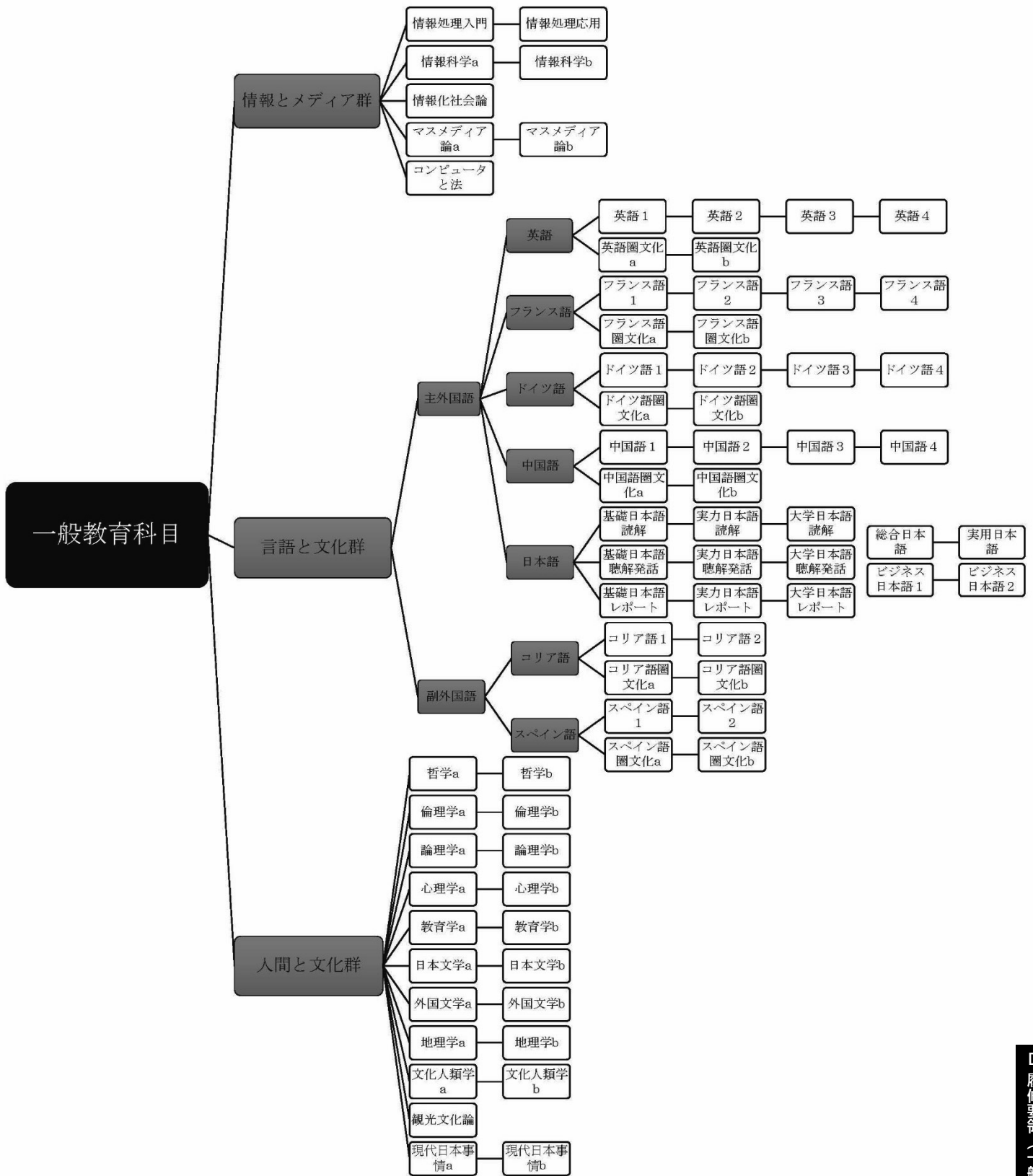
<一般教育科目カリキュラムマップ>

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	レベル	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪				
情報とメディア	情報処理入門	1	2	LA101	1			○	○											
	情報処理応用			LA102	2			○	○											
	情報科学 a			LA103	1	○		○	○											
	情報科学 b			LA104	1	○		○	○											
	情報化社会			LA105	1	○		○	○											
	マスメディア論 a			LA106	1	○		○	○											
	マスメディア論 b			LA107	1	○		○	○											
	コンピュータと法			LA108	1	○		○	○										○	
言語と文化	英語 1	1	2	LB101	1			○		○				○						
	英語 2			LB102	2			○		○					○					
	英語圏文化 a			LB103	1	○		○		○			○	○						
	英語圏文化 b			LB104	1	○		○		○			○	○						
	フランス語 1			LB105	1			○		○				○						
	フランス語 2			LB106	2			○		○				○						
	フランス語圏文化 a			LB107	1	○		○		○			○	○						
	フランス語圏文化 b			LB108	1	○		○		○			○	○						
	ドイツ語 1			LB109	1			○		○				○						
	ドイツ語 2			LB110	2			○		○				○						
	ドイツ語圏文化 a			LB111	1	○		○		○			○	○						
	ドイツ語圏文化 b			LB112	1	○		○		○			○	○						
	中国語 1			LB113	1			○		○				○						
	中国語 2			LB114	2			○		○				○						
	中国語圏文化 a			LB115	1	○		○		○			○	○						
	中国語圏文化 b			LB116	1	○		○		○			○	○						
	基礎日本語読解	LB117	1			○		○				○								
	基礎日本語聴解発話	LB118	1			○		○				○								
	基礎日本語レポート	LB119	1			○		○				○								
	実力日本語読解	LB120	2			○		○				○								
	実力日本語聴解発話	LB121	2			○		○				○								
	実力日本語レポート	LB122	2			○		○				○								
	大学日本語読解	LB123	3			○		○				○								
	大学日本語聴解発話	LB124	3			○		○				○								
	大学日本語レポート	LB125	3			○		○				○								
	英語 3	LB201	2	2	LB201	3			○		○			○						
	英語 4	LB202			4			○		○			○			○				
	フランス語 3	LB203			3			○		○				○						
	フランス語 4	LB204			4			○		○				○						
	ドイツ語 3	LB205			3			○		○				○						
	ドイツ語 4	LB206			4			○		○				○						
	中国語 3	LB207			3			○		○				○						
中国語 4	LB208	4					○		○				○							
総合日本語	LB209	2					○		○				○							
ビジネス日本語 1	LB210	2					○		○				○							
1	スペイン語圏文化 a	1	2	LB126	1	○		○		○			○							
	スペイン語圏文化 b			LB127	1	○		○		○			○							
	コリア語圏文化 a			LB128	1	○		○		○			○							
	コリア語圏文化 b			LB129	1	○		○		○			○							
2	コリア語 1	2	2	LB211	1			○		○			○							
	コリア語 2			LB212	2			○		○			○							
	スペイン語 1			LB213	1			○		○			○							
	スペイン語 2			LB214	2			○		○			○							
3	実用日本語	3	2	LB301	3			○		○			○							
	ビジネス日本語 2			LB302	3			○		○			○							

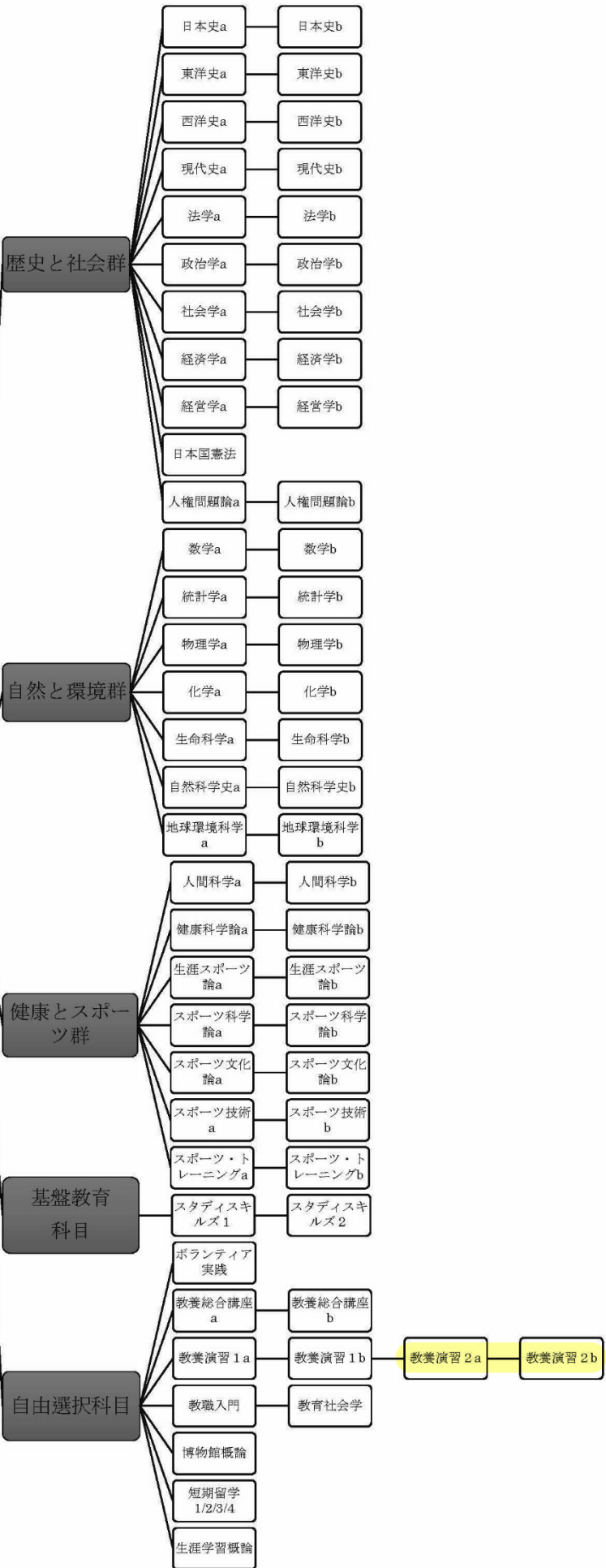
科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	レベル	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
人間と文化	哲学 a	1	2	LC101	1	○		○			○		○	○	○	
	哲学 b			LC102	1	○		○			○		○	○	○	
	倫理学 a			LC103	1	○		○			○		○	○	○	
	倫理学 b			LC104	1	○		○			○		○	○	○	
	論理学 a			LC105	1	○		○			○					
	論理学 b			LC106	1	○		○			○					
	心理学 a			LC107	1	○		○		○	○		○		○	
	心理学 b			LC108	1	○		○		○	○		○		○	
	教育学 a			LC109	1	○		○			○			○		
	教育学 b			LC110	1	○		○			○			○		
	日本文学 a			LC111	1	○		○			○	○				
	日本文学 b			LC112	1	○		○			○	○				
	外国文学 a			LC113	1	○		○			○	○				
	外国文学 b			LC114	1	○		○			○	○				
	地理学 a			LC115	1	○		○			○	○				
	地理学 b			LC116	1	○		○			○	○				
	文化人類学 a			LC117	1	○		○			○	○				
	文化人類学 b			LC118	1	○		○			○	○				
	観光文化論			LC119	1	○		○			○	○				
	現代日本事情 a			LC120	1	○		○			○	○				
	現代日本事情 b			LC121	1	○		○			○	○				
歴史と社会	日本史 a	1	2	LD101	1	○		○			○	○				
	日本史 b			LD102	1	○		○			○	○				
	東洋史 a			LD103	1	○		○			○	○				
	東洋史 b			LD104	1	○		○			○	○				
	西洋史 a			LD105	1	○		○			○	○				
	西洋史 b			LD106	1	○		○			○	○				
	現代史 a			LD107	1	○		○			○	○				
	現代史 b			LD108	1	○		○			○	○				
	法学 a			LD109	1	○		○			○	○				
	法学 b			LD110	1	○		○			○	○				
	政治学 a			LD111	1	○		○			○	○				
	政治学 b			LD112	1	○		○			○	○				
	社会学 a			LD113	1	○		○			○	○				
	社会学 b			LD114	1	○		○			○	○				
	経済学 a			LD115	1	○		○			○	○				
	経済学 b			LD116	1	○		○			○	○				
	経営学 a			LD117	1	○		○			○	○				
	経営学 b			LD118	1	○		○			○	○				
	日本国憲法			LD119	1	○		○			○	○		○		
	人権問題論 a			LD120	1	○		○			○	○		○		
	人権問題論 b			LD121	1	○		○			○	○		○		
自然と環境	数学 a	1	2	LE101	1	○		○			○					
	数学 b			LE102	1	○		○			○					
	統計学 a			LE103	1	○		○			○					
	統計学 b			LE104	1	○		○			○					
	物理学 a			LE105	1	○		○			○					
	物理学 b			LE106	1	○		○			○					
	化学 a			LE107	1	○		○			○					
	化学 b			LE108	1	○		○			○					
	生命科学 a			LE109	1	○		○			○					
	生命科学 b			LE110	1	○		○			○					
	自然科学史 a			LE111	1	○		○			○					
	自然科学史 b			LE112	1	○		○			○					
	地球環境科学 a			LE113	1	○		○			○					
	地球環境科学 b			LE114	1	○		○			○					

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	レベル	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪			
健康とスポーツ	人間科学 a	1	2	LF101	1	○		○			○		○						
	人間科学 b			LF102	1	○		○			○		○						
	健康科学論 a			LF103	1	○		○			○		○						
	健康科学論 b			LF104	1	○		○			○		○						
	生涯スポーツ論 a			LF105	1	○		○			○		○						
	生涯スポーツ論 b			LF106	1	○		○			○		○						
	スポーツ科学論 a			LF107	1	○		○			○		○						
	スポーツ科学論 b			LF108	1	○		○			○		○						
	スポーツ文化論 a			LF109	1	○		○			○		○						
	スポーツ文化論 b			LF110	1	○		○			○		○						
	スポーツ技術 a			LF111	1	○		○			○		○						
	スポーツ技術 b			LF112	1	○		○			○		○						
	スポーツ・トレーニング a			LF113	1	○		○			○		○						
	スポーツ・トレーニング b			LF114	1	○		○			○		○						
基盤教育科目	スタディスキルズ 1	1	2	LG101	1			○		○									
	スタディスキルズ 2			LG102	2			○		○									
自由選択科目	ボランティア実践	1	2	LH101	1	○		○					○						
	教養総合講座 a			LH102	1	○		○					○						
	教養総合講座 b			LH103	1	○		○					○						
	教養演習 1 a			LH104	1	○		○						○					
	教養演習 1 b			LH105	1	○		○						○					
	教養演習 2 a			LH106	2	○		○							○				
	教養演習 2 b			LH107	2	○		○								○			
	教職入門			LH108	1			○				○		○	○	○			
	博物館概論			LH109	1	○		○						○					
	短期留学 1			LH110	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 2			LH111	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 3			LH112	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 4			LH113	1	○		○			○	○	○	○					
	教育社会学	LH201	2	2	1	○		○			○		○						
	生涯学習概論	LH202	2	2	1	○		○			○		○						
	教養総合講座 a (Aクラス)	LH301	34	2	3	○		○			○		○						
	教養総合講座 b (Aクラス)	LH302	34	2	3	○		○			○		○						
	教養演習 1 a (Cクラス)	LH303	34	2	3	○		○			○		○						

<履修系統図>



一般教育科目



補足. 本学における数理・データサイエンス・AI教育

本学学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的に学んでもらうことを目的として以下のプログラムを設置する。

数理・データサイエンス・AIプログラム

【導入レベル】

AI データサイエンスリテラシーパッケージ

科目区分	科目名	単位	期間	配当学科	配当年次
一般教育科目 (自由選択科目)	教養演習 2 a (AI データサイエンス総論)	2	前期	EBIGT 全学部全学科	1234
一般教育科目 (自由選択科目)	教養演習 2 b (AI データサイエンス実習入門)	2	後期	EBIGT 全学部全学科	1234

上記 2 科目を修得することでパッケージ修了証を発行する。

【発展レベル】

○経営情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

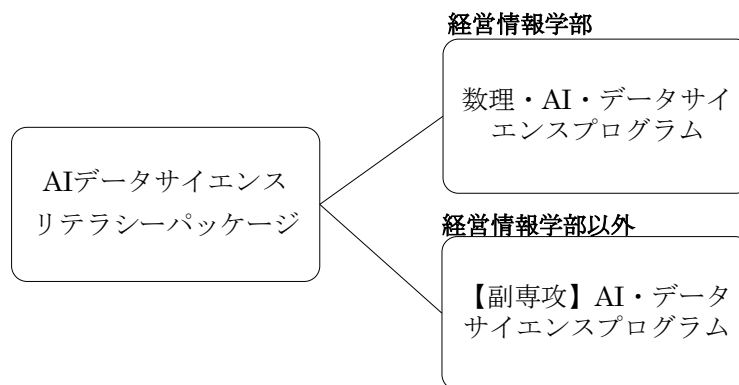
※履修要綱 H-15 頁参照

○経営情報学部以外 【副専攻】 AI・データサイエンスプログラム

※履修要綱 L-4 頁参照

本学におけるAIデータサイエンス教育履修系統図

履修の制限は設けていないが、導入レベルを修得した上で発展レベルを履修していくことが望ましい。



○教務委員会規程

(平成3年4月1日制定)

改正 平成9年4月1日 平成12年4月1日
平成18年4月1日 平成23年4月1日
平成26年1月21日

(目的)

第1条 本学に、教務に関する重要事項を審議し、かつ教務部長の日常業務の執行を補佐するため、教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の者で構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部教授会選出の専任教員 各1名
- (3) 教務部事務部長
- (4) 教務課長
- (5) 教育情報課長

2 委員長は教務部長とする。

(委嘱)

第3条 委員の委嘱は、学長が行う。

(任期)

第4条 第2条第1項第1号、第3号及び第4号委員の任期は、当該役職在任期間とする。

2 第2条第1項第2号の委員の任期は、1年とし、再任は妨げない。

3 第2条第1項第2号の委員が任期満了前に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残余の期間とする。

(招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長に事故あるときは、委員の互選により委員長代理を置き、委員長の職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員長は、必要に応じて委員以外の関係者に出席を求め、その意見を聴取することができる。

(審議事項)

第7条 委員会は、次の事項を審議し、各学部及び大学院研究科の連絡調整にあたるものとする。

- (1) 学部の学科課程及び教育課程に関する事項
- (2) 学部の授業、学内試験及び成績に関する事項
- (3) 学部の学籍、入学、卒業及びその他学生の身分に関する事項
- (4) 学部の科目等履修生、聴講生及び外国人留学生に関する事項
- (5) 教務部の予算に関する事項
- (6) その他教学に関する事項

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務部教務課が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成9年4月1日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年4月1日)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成23年4月1日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成26年1月21日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

(目的)

第1条 大学教育センター規程第8条に基づき、Society5.0に対応するAI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行うため、その教育に関する研究を統轄するAI・データサイエンス教育研究所(以下「研究所」という。)を大学教育センター長の諮問機関として設置する。

(事業)

第2条 研究所は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究
- (2) 各学部の専門分野とAI・データサイエンスの連携に関する研究並びにAI・データサイエンスとのコラボレーション科目の授業設計
- (3) AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
- (4) その他前条の目的を達成するために必要と認められる事業

(所長)

第3条 研究所に所長を置く。所長は研究所を代表し、その業務を統轄する。
2 所長は、本学専任教員から大学教育センター長が指名し、学長が任命する。
3 所長の任期は、所長を指名した大学教育センター長の在任期間とする。

(副所長)

第4条 研究所に副所長を置くことができる。副所長は、所長の職務を補佐する。
2 副所長は、本学専任教員から所長が指名し、学長が任命する。
3 副所長の任期は、当該副所長を指名した所長の在任期間とする。

(研究員)

第5条 研究所に研究員を置く。
2 研究員は所長が指名するAI・データサイエンス及び数理に見識のある専任教員とし、学長が任命する。
3 研究員は、第2条に定める事業の研究及び調査を行い、その結果を所長に報告する。
4 研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(顧問)

第6条 研究所に、必要に応じて顧問を置くことができる。
2 顧問については別に定める。

(事務)

第7条 研究所の事務は、教務部教育情報課が行う。

(細則等)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

○大学教育センター運営委員会規程

(平成23年4月1日制定)

改正 平成24年4月1日 平成26年3月14日
平成29年3月3日 平成31年3月28日

(目的)

第1条 この規程は、大学教育センター規程第6条第2項に基づき、大学教育センター運営委員会(以下「委員会」という。)について定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の者で構成する。

- (1) 大学教育センター長(以下「センター長」という。)
- (2) 大学教育センター副センター長(以下「副センター長」という。)
- (3) 各学部選出の専任教員 各1名
- (4) 教務部事務部長
- (5) 教務課長及び教育情報課長

2 委員長は、センター長とする。

(委嘱)

第3条 前条第1項第3号の委員の委嘱は、学長が行う。

(任期)

第4条 第2条第1項第1号、第2号、第4号、第5号の委員の任期は、当該役職在任期間とする。

2 第2条第1項第3号の委員の任期は1年とし、重任を妨げない。

(運営)

第5条 委員会は委員長が召集し、議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副センター長が委員長の職務を代理する。

3 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

4 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

(審議事項)

第6条 委員会は次の事項を審議し、各学部、大学院研究科及び各部局との連絡調整にあたるものとする。

- (1) 導入教育の施策に関する事項
- (2) キャリア教育の施策に関する事項
- (3) 大学全体のFD・SDの基本方針等の策定と実施に関する事項
- (4) 学修支援の施策と実施に関する事項
- (5) センターの予算に関する事項
- (6) その他、教育プログラムの開発、教育支援に関する事項

(部会の運営)

第7条 大学教育センター規程第7条に定める部会の運営のために、部会運営委員会を置く。

(部会運営委員会の構成)

第8条 各部会運営委員会の組織、構成等については、別表のとおりとする。

2 各部会運営委員会は、必要に応じて関係者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務局)

第9条 委員会の事務は、教務部教育情報課が行う。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月14日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月3日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月28日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

別表

部会名	委員会名	構成員	事務局
各学部・研究科FD部会	流通学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	経済学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	経営情報学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	国際コミュニケーション学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	国際観光学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	大学院企業情報研究科FD部会運営委員会	研究科任命委員	教務部教務課
SD部会	SD部会運営委員会	センター長、副センター長、学長室入試担当部長、法人部長、教務部事務部長、事務職員会委員長	教務部教育情報課

AIデータサイエンス リテラシーパッケージ 取組概要

<概要>

阪南大学では次世代型実学教育として、AI・データサイエンス教育プログラムを用意しています。

2020年度より開始したAI データサイエンス・リテラシーパッケージは、これからAI データサイエンスを学ぶ学生を対象とした導入プログラムです。

下記の対象科目(2科目)を履修・修得した人には、認定証を発行します。

<対象科目>

- ・教養演習2a(AI データサイエンス総論)
- ・教養演習2b(AI データサイエンス実習入門)

<対象学生>

全学部全学科の学生が受講可能です。

特に2～4年次生におすすめのプログラムです。

教養演習2a(AIデータサイエンス総論)

- ★AIの歴史
- ★AI・データサイエンスとは
- ★人工知能の適用例 など

急速な発展を遂げている「AI(人工知能)」について学べる講義科目です。

教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門)

- ★機械学習AIサービスの利用体験
- ★基礎プログラミング実習
- ★AI活用システム案の立案(グループワーク) など

機械学習AIの仕組みを学び、自身の専門分野に活用できるように検討・企画・立案できるようになることを目指す実習科目です。

阪南大学のAIデータサイエンス教育の全体像

導入

AIデータサイエンス
リテラシーパッケージ
(一般教育科目で構成 | 全学受講可)

経営情報学部以外

経営情報学部

【副専攻】
AI・データサイエンス
プログラム
(他学部受講科目で構成)

数理・データサイエンス
・AI教育プログラム
(経営情報学部学科科目で構成)

発展

今後の計画

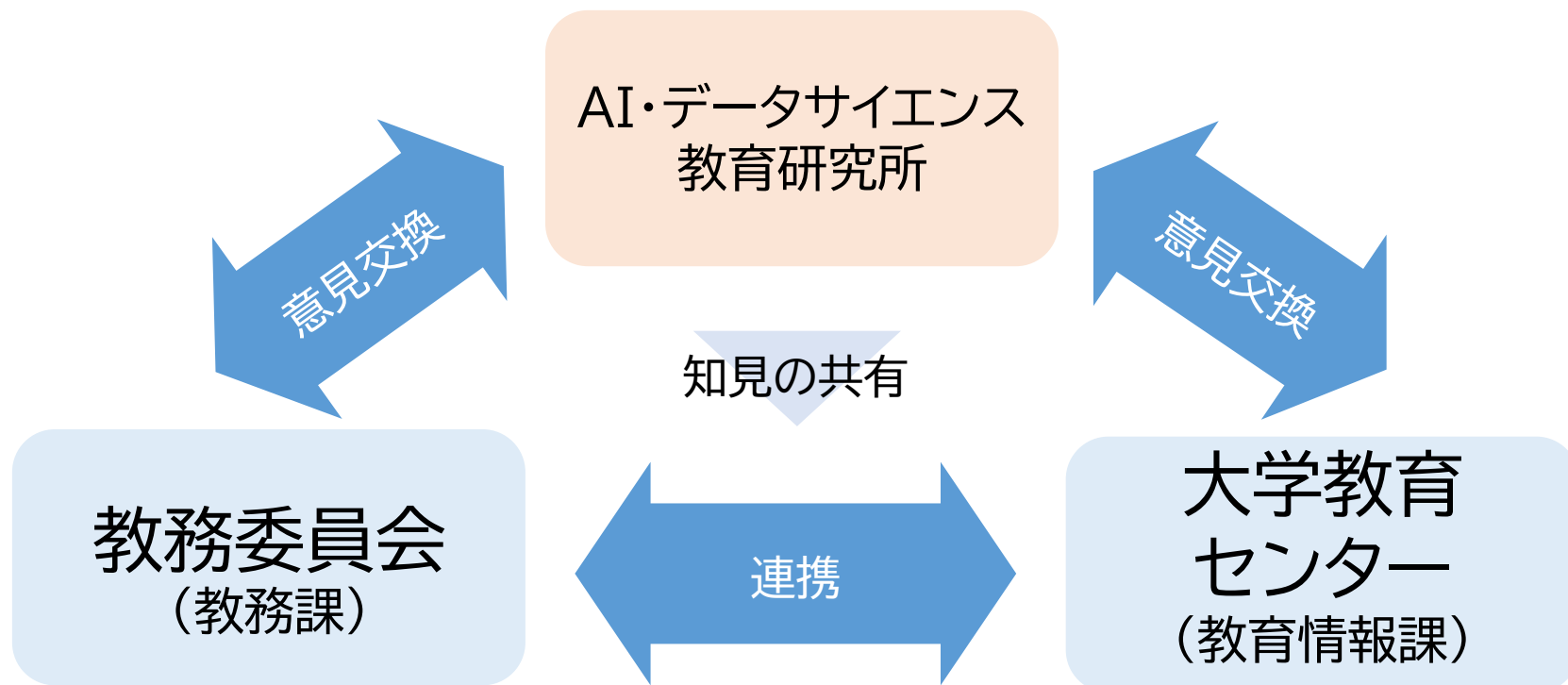
より多くの学生に本学におけるAIデータサイエンス教育を理解してもらい、受講者数を増加させるため、一般教育科目に以下の新規科目を開設し、2022年度よりAIデータサイエンスリテラシーパッケージ対象科目を移行する。

教養演習2a(AIデータサイエンス総論)
→AIデータサイエンス総論

教養演習2b(AIデータサイエンス実習入門)
→AIデータサイエンス入門1・2
※現状半期1科目を半期×2科目に拡大

AIデータサイエンス教育の取り組み体制

- ・AIデータサイエンス教育に関する全学横断的な取組全般
- ・AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
- ・全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究



- ・LMS集積データの分析
- ・学生からの問合せサポート
- ・履修者増加施策立案実施

- ・学生アンケートの分析
- ・授業ツールの設計